

妻ヶ丘中学校だより

令和6年1月10日 校長 深江 祐史

三学期が始まりました

新年あけましておめでとうございます。17日間の長い冬休みでしたが、いかがだったでしょうか。

元旦に石川県能登半島で大きな地震が発生し、広範な地域で甚大な被害が確認されています。帰省中だった中学1年生が亡くなったとのニュースを聞いたときは本当に心が痛みました。お亡くなりになられた方々に心より哀悼の意を表しますとともに、被災された方々にお見舞いを申し上げます。

本校でも始業式を前に全校生徒で黙とうを捧げました。被災地の一日も早い復興をお祈りしたいと思います。

さて、本県は全国の中でもインフルエンザの感染状況が心配される地域であるとの報道がなされています。始業式の中でも養護教諭の山崎先生から感染予防に関する具体的な指導が行われました。現下の状況から、感染が落ち着くまでには、もう少し時間がかかるものと思われます。特に3年生のご家庭では、受検を控え、心配と緊張の三学期になると思いますが、不安なことがありましたら、どうぞ遠慮なく担任の先生等にご相談ください。

なお、学校としても適切なマスク着用、こまめな手指消毒、定期的な換気等、引き続き感染予防の指導を行ってまいりますので、登校前の連絡を含め、ご家庭のご理解とご協力どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、3年生は進路目標実現、1,2年生は次の学年へ向けての仕上げの時期となる大切な三学期をみんなでしっかり頑張っていきましょう。

始業式が行われました

本日(9日)の始業式では、4名の生徒に「三学期の抱負」を述べてもらいました。

1年代表の 加未 比呂慧さんは、三学期①授業、特に自習の時の取組改善②部活動に対するモチベーションアップ③生活リズムの改善④学級委員長として信頼される行動をする、の4つを挙げました。特に③では自分の部屋の整理整頓と睡眠時間をしっかり確保したいとのことでした。

2年代表の 川越 蒼太さんは、①時間を見て行動すること②日常を大切にして過ごすこと③3年進級を前に今までよりもしっかり勉強に取り組むことの3つを挙げました。特に②については、元旦の大きな地震の状況を見て、当たり前前の生活がいかに尊くて、感謝すべきことなのかを強く感じたとのことでした。

3年代表の 市太 希さんは、①これまで以上に徹底した体調管理に努める②受験当日までコツコツ最後まであきらめずに頑張る勉強に取り組むの2つを挙げました。受検生としての覚悟が感じられる発表でした。さらに市太さんは、全員が志望校に合格できるようお互いに支えあい、協力して笑

顔で卒業式を迎えましょうと三年生全員に呼びかけました。自分だけではなく、学年全員で素晴らしいエンディングを迎えたいとの強い想いが伝わってきました。

生徒会代表の 巢立 大海 さんは、受験に挑む3年生に対してエールを送るとともに来年には受験生となる2年生と、いよいよ後輩が入学してくる1年生へ上級生としての自覚を促す呼びかけを行いました。さらに昨年度、生徒会が呼びかけたボランティア活動に多くの生徒が協力してくれたことへのお礼と今年はさらに積極的に挑戦していきたいと意気込みを語りました。

4人は緊張の表情でしたが、壇上でしっかり自分の考えを発表しました。後は、それをいかに行動にうつせるかです。自分への挑戦ですね。頑張ってください。

その後、私からは、全校生徒に対して以下の話をさせていただきました。

皆さんもご存じのとおり、元旦に信じられないことが起こりました。

ここで詳しくお話することはしませんが、今朝の生徒会の校内放送でもあったとおりです。1月9日付の新聞等で確認すると、今回の地震で168名の方がお亡くなりになり、323名の方が現在も安否不明となっています。

今朝、都城も寒かったのですが、ニュース等の映像を見る限り、被災地は本当に厳しい天候が続いているようです。被災者の方々はどんなにつらいことだろうと思います。

前も少しお話したと思いますが、こういう時、ぜひ「心を飛ばせる」人になってほしいと思います。

相手の立場になって考える…そういうことのできる皆さんであってほしいと考えます。

さて、話は変わりますが、私は1月3日に「二十歳の集い」に出席しました。と、いっても君たちの先輩、妻ヶ丘地区の「二十歳の集い」ではありません。当時、勤務していた別の中学校の「二十歳の集い」に当時の校長として来賓で出席させていただきました。

式典の中で、代表として3名の方が意見発表を行いました。すでに社会人として働いている人、今、専門学校に通っていて、この春から社会人になる人、まだ大学生の人…それぞれが自分の夢や、今考えていることを発表しました。その中で、三人から同じ言葉が聞かれました。

それは「感謝」という言葉です。二十歳という節目に際し、これまでを振り返ると、やっぱり「感謝」なんですよね。自分一人の力でここまで来たわけではない…家族や友人、恩師…いろんな人の支えがあつての今である…ということを実感するのだと思います。だから、だからこそ、その方々の期待に自分は答えたい。とてもよい意見発表でした。

最後に実行委員の方から二十歳の皆さんに何かメッセージを伝えてくださいと依頼がありましたので私からは次の話をさせていただきました。

「自分の物語の主人公は自分であることを忘れないでください。あなたの物語の中では、周りの人は全て脇役です。どんな物語にしたいかは、自分で決めてください。もちろんそう簡単にはいかないかもしれませんが、それでも自分の考え方や行動一つで未来は大きく変わります。自分は、どうなりたいのか、世の中でどう生きていきたいのか、自分の心に問いかけて、それを見失わないよう頑張ってください。」

新年のスタートに際し、皆さんにも同じことを伝えたいと思います。2024年、頑張ってください。